

其のまま地口・ 猫飼好五十三疋

歌川国芳の代表作である本作品は、東海道五十三次に登場する宿場を、猫に閑したダジャレに置き換えた大判三枚からなる戯画です。「地口」とはダジャレの一種であり、有名な言葉やフレーズをもじったもの、ただ単に韻をそろえたもの、言葉尻に同音異義語をつなげたものなど、いくつかのパターンがあります。当作品では東海道の始点である江戸・日本橋と終点である京・三条大橋を加えた計五十五図が示されています。

荒井(あらい)

→あらい(顔洗い)



府中(ふちゆう)

→むちゆう
(魚にむちゆう)



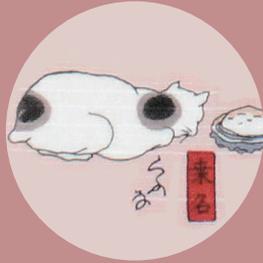
日本橋(にほんばし)

→二本だし
(二本の鰹節を盗み食い)



桑名(くわな)

→くふな
(食うな。おあずけ)



鞠子(まりこ)

→はりこ
(民芸品、張り子の猫)



原(はら)

→どら(ドラ猫)



四日市(よっかいち)

→よったぶち
(寄り集まるブチ猫)



袋井(ふくろい)

→ふくろい
(袋に頭をつっこむ)



沼津(ぬまづ)

→なまず
(ナマズを見つめる)



京(きょう)

→ぎやう(ネズミの悲鳴)



浜松(はままつ)

→はなあつ(鼻が熱い)



由井(ゆい)

→たい(大きなタイ)

